

尚絅大学・尚絅大学短期大学部  
慈濟大学

交流協定締結 10 周年記念誌

# 10<sup>th</sup> Anniversary



Shokei University • Shokei University Junior College



Tzu Chi University

# 目次

|    |  |    |
|----|--|----|
| 1. | 学長挨拶 .....                               | 1  |
|    | 尚綱大学・尚綱大学短期大学部 学長 山縣ゆり子                  |    |
|    | 慈済大学 学長 劉怡均                              |    |
| 2. | 学部長挨拶 .....                              | 6  |
|    | 尚綱大学現代文化学部 学部長 桑原芳哉                      |    |
|    | 慈済大学人文社会学部 学部長 黄麗修                       |    |
| 3. | 交流 10 周年によせて .....                       | 10 |
|    | 尚綱大学現代文化学部 北口(和田)英穂                      |    |
|    | 慈済大学東方語文学科 頼芷葳                           |    |
| 4. | 10 年間の交流の記録 .....                        | 15 |
|    | 4-1. 慈済大学中国語センターの取り組み: 慈済大学 中国語センター長 李孝慈 |    |
|    | 4-2. 報告: 尚綱大学現代文化学部 北口(和田)英穂             |    |
|    | 慈済大学東方語文学科 頼芷葳                           |    |
| 5. | これからの 10 年 .....                         | 41 |
|    | 尚綱大学・尚綱大学短期大学部 グローバル化推進センター長 竹下裕俊        |    |
|    | 慈済大学 国際長 蕭心怡                             |    |

## 1. 学長挨拶

### ご挨拶

本記念誌は、2011年9月尚絅大学の文化言語学部(当時)と台湾・花蓮市にある慈済大学人文社会学院東方語文学系の部局間交流協定を締結してから10周年を迎えることを記念して発行されました。コロナ禍の中でしたが、予定通り発行されますことを大変うれしく思っております。

本学と慈済大学の交流は2009年3月に当時の文化言語学部の授業の一環として、本学教員2名が学生17名を引率して慈済大学を訪問したことが発端となり、双方の2回の訪問を経て、上記の部局間交流協定が締結され、その後の活発な相互交流が推進され、2014年には大学間協定に発展、現在に至っております。両校間では、相互研修旅行(1週間で、受入側の学生が主導となり交流会や合同フィールドワーク、報告会などに89名参加)、短期語学留学(4週間で語学研修や各種文化体験、小旅行などに96名参加)、交換留学(1年もしくは半年に30名参加)を毎年実施してきました(なお、2016年と2017年はそれぞれ熊本地震と花蓮地震のため一部中止、2020年はコロナ感染拡大のためすべて中止)。その中で、本学の本プログラムの参加者111名のうち23名が複数のプログラムに参加し、中にはトビタテ留学JAPANや台湾の大学院進学にステップアップした学生もいます。両校の参加者の報告からも、それぞれのプログラムに則したグローバル教育を体験した学生の成長を見ることができ、質の高い学修の成果だと言えます。

また、この慈済大学との当初の相互訪問と部局間交流協定締結に基づく国際交流の推進が、2014年5月の仁徳大学校(韓国)との大学間交流協定締結に繋がり、さらに、大学間交流協定締結は、2019年2月の高雄大学(台湾)、同年3月上海杉達学院(中国)、同年4月Southern University College(マレーシア)2020年7月済州大学校(韓国)へと拡大しました。

これらの国際交流の進展により、本学の特に現代文化学部への志望の動機として、協定校への留学をあげる入学生が増えてきたと喜んでおりましたところ、2020年初頭、世界を新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の危機が襲い、海外渡航は難しくなり、2020年度以降2021年度秋まですべてのプログラムは中止となりました。幸い2021年2月、九品寺キャンパスに大学7号館が完成したのに伴い、現代文化学部が武蔵ヶ丘キャンパスから移転し、大学7号館1階に設置されたグローバルラウンジの設備を利用して、上記6校の海外協

定大学を中心にオンラインによる交流会や語学講座の受講などの国際交流が活発になりました。その中でも慈濟大学との交流は最も活発で、オンライン中国語講座、慈濟大学生による中国語講座、お互いに相手国の言葉での交流会、日本語おしゃべり会などが頻繁に行われています。これからはお互いに現地に赴く交流活動に加え、オンラインによる交流も増え、ますます多様で活発で、質の高い新しい国際交流も生まれることを期待しております。

以上述べましたように、これまでの慈濟大学との交流が、本学の国際交流の発展に大きな貢献をしております。最後になりましたが、両校の国際交流活動を様々な立場で支えて下さいましたすべて関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部 学長 山縣ゆり子

(対訳)

#### 校長致詞

這本紀念刊物是為了慶祝 2011 年 9 月、當時尚綱大學的文化語言學部和位於台灣花蓮市的慈濟大學人文社會學院東方語文學系，兩系簽訂交流協議 10 周年而發行的。尤其在新冠肺炎疫情肆虐的此刻，本書能夠照原定計畫發行，深感高興。

本校和慈濟大學的交流源自 2009 年 3 月，由於當時文化語言學部的課程需要，本校的 2 位教員帶領 17 位學生率團訪問慈濟大學，後來雙方又經過兩次的互訪之後締結了上述兩系的交流協定。之後兩系的互訪和交流頻繁，於是在 2014 年兩校發展成為校對校的交流層級，締結為姐妹校直到現在。兩校之間的交流內容有相互研修旅行（為期一週、由接待方的學生主導的交流會以及協同田野調查報告等等活動形式進行，累計有 89 名同學參加）、短期語言遊學（為期 4 週，進行語言研修、文化體驗、小旅行等活動，累計有 96 名同學參加）、交換留學生（分為一年或是半年的留學，共有 30 位同學參加），雖然這些交流活動每年都會舉辦，但在 2016 年和 2017 年曾因為熊本地震和花蓮地震而一度終止派遣，2020 年又因為新冠肺炎疫情嚴重而全部停擺。本校的參加者共有 111 位，當中有 23 位重複參加各種留學方案，甚至也有同學進而參加日本政府的「學海飛颺學海惜珠」(TOBITATE 日本)的留學計劃出國、或是去台灣的研究所就讀，繼續體驗國際教育，展現出高品質的學習成果。

後來本校以和慈濟大學從先相互訪問、進而簽訂交流協定的經驗為基礎推動國際交流，在 2014 年 5 月和韓國的仁德大學簽訂交流協定、2019 年 2 月和台灣的高雄大學、3 月和中國的上海杉達學院、4 月和馬來西亞的 Southern University College、2020 年 7 月和韓國的濟州大學也簽訂了交流協定。

由於這些國際交流的進展，我很高興看到許多想要藉由進入本校、特別是現代文化語文學部就學然後到姐妹校留學的學生增加了。很遺憾在 2020 年初、全球因心冠肺炎傳染擴大所引發前所未見的危機來襲，造成出國困難，不得不終止 2020 年以後到 2021 年秋季所有的方案。

幸好 2021 年 2 月、九品寺校區完成了大學 7 號館，現代文化學部也從武藏丘校區遷移至此，可以使用 7 號館的國際交誼廳的設備，和上計的六個海外姐妹校進行線上交流會或是舉辦語言課程的講座等等，讓國際交流更加興盛。在這些交流活動中，我們和慈濟大學的交流最為熱絡，有線上的中文課程講座、慈濟大學生的中國語講座等等，彼此用對方國家的語言非常頻繁的進行交流會、談話會等等活動。我也非常期待今後也能增加更多到彼此國家進行實地交流活動、同時再加強線上交流，開創出更多樣性、更活潑具有高品質的新型國際交流模式。

就像前面所說的，和慈濟大學的交流模式對本校的國際交流發展具有非常大的貢獻。最後我要向兩校在國際交流活動中盡心盡力的教職員們獻上我最深、最誠懇的謝意，感謝他們為國際交流的諸多付出。

尚綱大學・尚綱大學短期大學部 校長 山縣ゆり子

## 序

欣聞本校與重點姊妹校尚綱大學今年(2021)簽訂交流協定屆滿十年,期間感恩東方語文學系老師與同學們的努力耕耘,以及華語教學中心的課程規劃。十年的時光,說長不長,說短不短,我們知道重點從來不是這個時間點的璀璨,而是中間的過程是如此的難能可貴!試想,在全球這個多的國家、這麼多的大學當中,能夠有如此深厚的因緣、如此契合的共識,兩個學校攜手共進,從 2009 年文化語言學部來訪的那一刻起,每一年展開的互訪交流,奠定了深厚的友誼。

這十年來,尚綱大學從加藤教授到北口教授,慈濟大學從李育娟老師到賴芷葳老師,有著學生們愉快的交流互訪與文化分享的笑聲,也有著教師們為了教育揮灑著青春與熱血,今年暑假,雖因疫情的緊張,兩校無法進行實體上的交流,仍然延續這份美好的經驗與默契,透過雲端,線上的交流反而更加熱絡,尚綱大學中、高年級學生與本校華語中心依照既定規劃進行華語課程,另外在八百谷晃義老師的穿針引線,與何昆益主秘、北口教授一起討論合作方案,促成本校華語教學學程與尚綱大學一年級新生的線上實習課程,這是學程規劃的首次線上實習,兩校不因疫情的阻隔,在華語教育、語言交流以及文化分享等領域,攜手合作,展現了一次又一次的耀眼成果,更為後疫情時期開闢了一個新的里程碑,回顧與前瞻兩校近十年來的各項合作,滿載著教育者的用心良苦與薪傳之樂。

本人由衷感恩兩校主管、師長、學生們的積極付出,在此祝賀兩校交流圓滿十週年的同時,期待兩校在未來的十年、二十年,甚至於百年千年,能夠「共創巒宮典範,同擎慧命良能」,更預祝未來雙方在研究方面的合作能夠更加密切,研擬教師與學生的教學實踐與國際移動力計畫,深耕兩校的跨領域科技整合之研究,共同為亞洲的高等教育開創新局。

慈濟大學 校長 劉怡均 謹誌

(対訳)

本学と重点姉妹校尚綱大学との交流協定が今年(2021年)10周年を迎えるとのこと、東方語文学系の先生方や学生さんのご尽力、及び中国語センターのプログラム設置に感謝いたします。10年という時間は長いと言えば長く、短いと言えば短いですが、重要なのはその時の輝きではなく、その間のプロセスがとても貴重です。世界の多くの国、多くの大学の中で、これほど深い絆とこれほどフィットした合意を持つことができ、両校は手を取り合い共に進んできました。2009年文化言語学部の訪問の時から毎年相互交流が進められ、深い友情を築いてきました。

10 年来、尚絅大学は加藤教授から北口教授、慈済大学は李育娟先生から頼芷葳先生まで、学生たちの楽しい相互交流と異文化交流の笑い声があり、先生方の教育のためにささげた青春と熱血がありました。今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、両校の対面での交流は不可能でしたが、こうした素晴らしい経験と通じ合う心は続けられました。オンライン上での交流は頻繁になり、尚絅大学の学生は本学中国語センターの提供する中国語プログラムに参加したり、本学の八百谷晃義先生の導きのもと、何昆益先生、北口教授と共同で本学の中国語教育カリキュラムの尚絅大学1年生に対するオンライン実習を試行したりしました。これは初めてのオンライン実習でした。このように、両校は新型コロナウイルス感染症で阻まれることなく、中国語教育、言語交流、及び異文化交流等の領域において、手を携え協力することで、何度もその成果を挙げ、ポストコロナに向けての新たな節目となりました。振り返ってみると、両校のこの 10 年の協力関係は、教育者のひたむきな姿と受け継がれる喜びに満ちていると感じます。

私は両校の責任者、教員、学生達の積極的な貢献に心より感謝し、両校の交流 10 周年を祝福すると同時に、未来の 10 年、20 年、更には 100 年、1000 年にわたり「共創賢宮典範，同擎慧命良」(共に学校の模範となり、学生の持って生まれた能力を引き出す)、そして、今後双方の研究面でのより緊密な協力関係を築き、教員や学生の教育実践やグローバルなプログラムを発展させ、両校の分野横断の研究を進め、共にアジアにおける高等教育の新たな地平を切り開くことを期待いたします。

慈済大学 学長 劉怡均



## 2. 学部長挨拶

### 慈済大学との交流 10 周年にあたって

尚綱大学と慈済大学との交流協定が締結され、2021 年で 10 周年を迎えることができました。慈済大学との交流協定は、尚綱大学にとって初のアジア地域の大学との交流協定であり、その後の他の大学との交流協定の基本となったものです。

慈済大学との交流協定は、当初は尚綱大学文化言語学部と慈済大学東方語文学系の学部間協定として開始されました。現在は大学間協定に移行していますが、語学学習や両地域の文化研究など、具体的な交流の中心的内容は、文化言語学部から改組された現代文化学部のカリキュラムに密接に関連しています。特に、現代文化学部に設けられた専門領域のうち「日本・東アジア社会文化領域」のカリキュラムなどに関しては、留学を意識した科目により構成されています。

この 10 年間に、多くの学生が交換留学や短期語学留学、研修旅行の機会を利用して、相互に交流を深めてきました。慈済大学からの留学生の来訪は、尚綱大学の在在学生にとっても、身近なところで「異文化」を体験できる貴重な機会となり、必ずしも海外に深い興味を持たない学生にも、さまざまな面で刺激や影響を与えるきっかけになったと考えられます。2020 年からの新型コロナウイルス感染拡大により、直接の交流の機会が失われていることはたいへん残念な状況ですが、2021 年度からはオンラインによる交流が開始され、交流のスタイルも拡大していることは、交流の継続という点で意義がある取り組みと考えています。

尚綱学園の「全学グランドデザイン」では、尚綱大学における教育・研究目標を「智と徳を兼ね備え自律的に学修を続ける女性を育成し、基礎的・応用的研究を推進して成果を発信し、地域社会に貢献する」とし、国際化に関しては「教育研究の国際化を促進するために、海外の教育研究動向に目を向け、海外の諸機関と提携して相互の研究成果を交換し、共同研究を実施し、教員および学生の交流を推進する」としています。

このようなグランドデザインで示された国際化の目標を柱に据え、様々な異文化体験を通じて、長期ビジョンにおける学園の目指すべき姿(将来像)の中の「学園が求める学生像」で示されている、「自律的、主体的に行動し、グローバル化で活躍できる人材」の育成を目指し、尚綱大学・尚綱大学短期大学部における国際交流活動を実施しています。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部では、これまで、語学研修だけではなく、現地の学生との交流や共同活動も組み込むことで、実践的な語学力と国際社会でも通用するようなコミュニ

ケーション能力の向上を目指し、国際交流活動に取り組んできました。慈済大学との交流については、このような人材育成の礎となるものとして、さらに継続発展させることが必要と考えています。

尚綱大学現代文化学部 学部長 桑原芳哉

(対訳)

#### 寫在與慈濟大學交流 10 周年

尚綱大學和慈濟大學締結交流協定，在 2021 年要邁進第 10 個年頭了。這個本校與慈濟大學締結的交流協定，不但是尚綱大學第一個與亞洲地區的大學所簽定的交流協定，也是日後本校與其他大學交流協定的範本。

這個交流協定始於尚綱大學文化語言學部和慈濟大學東語系兩系的協定。現在雖然已經升格為兩校之間的交流協定，但是以語言學習、兩地的文化研究等具體的交流核心內容，都是和由文化語言學部所改制成的現代文化學部的課程有非常密切的關聯性。特別是在現代文化學部專門學群當中的「日本・東亞社會文化學群」的課程設計，多半是以留學為思考背景所構成。

這 10 年來，許多學生利用交換留學或是短期遊學、文化學術互訪等機會，加深了彼此的交流。來自慈濟大學留學生的造訪，對尚綱大學的學生來說，無異是個難得可以親身體驗「異文化」的機會，也可看作是給予那些原本對於外國事務不感興趣的學生提供各種的刺激與影響的契機。雖然非常遺憾，兩校的交流從 2020 年開始，因為新冠病毒疫情擴大而喪失了直接交流的機會，但是從 2021 年度開始利用線上交流，不僅擴大了交流的形式，也讓交流能繼續下去，意義非凡。

尚綱學園創校理念，是以「培養智德兼備、自主學習的女性，推進基礎研究和應用研究，傳播成果，回饋社會。」為大學的教育・研究目標，在國際化方面則致力於「為推動教育科研國際化，著眼海外教育科研動態，與海外機構合作交流研究成果，開展聯合研究，促進師生交流」。

依據這樣的創校理念以國際化的目標為支柱，透過各種異文化的體驗，正如本學園長期的願景中所揭示「學園要求的學生像」一樣，我們以培養「能自律、主體的行動能力，在國際化舞台上活躍的人才」為目標，在尚綱大學和尚綱大學短期大學部舉辦各種國際交流活動。

尚綱大學和尚綱大學短期大學部一直以來，是以提升實踐的語學力和能在國際社會溝通能力為教育目標，所以除了在語學研修之外，也透過和現地的學生交流、共同活動等方式積極參與國際交流活動。我認為本校和慈濟大學的交流，就是培育這種人才的基石，所以有必要繼續發展下去。

尚綱大學現代文化學系 主任 桑原芳哉

## 序

日居月諸，春遞秋嬗，臺灣花蓮・慈濟大學暨日本九州・尚絅大學，興校目標一致，治校理念契合，締緣始自 2009 年 3 月首次溫馨的蒞訪，「海內存知己，天涯若比鄰」，倏忽即逾十二個寒暑。

續者，2011 年簽署「慈濟大學人文社會科學院東方語文學系暨尚絅大學文化言語學部間學術及教育交流協議書」（慈濟大学人文社会学院東方語文学系と尚絅大学文化言語学部の間における学術及び教育の交流に関する協議書），主要涵括：「短期語言留學」、「文化學術互訪」、「交換學生留學」、「日本語教師教學實習」計四項備忘錄，正式結盟迄今，適逢首個十週年，彌足珍貴，可喜可賀！

立基於此，2014 年雙邊更上一層樓「姐妹校」儼然建構完成，校際交流井然有序，途經諸位師長暨歷屆同學們無私無我的奉獻及戮力毋懈的耕耘，發光發熱，嘉惠學子，福杯滿溢，恩典穎實。

鵠首「相知無遠近，萬里尚為鄰」，值此相慶共幸的良辰吉日，祈見慈濟大學與尚絅大學間，美麗的相遇，歡心的相識，幸運的相知，誠摯的相惜，相濡以沫，「學海無涯動是岸，青雲有路志為梯」，攜手共同邁進第二個十年、第三個十年…… 直至亙古共榮。

慈濟大學人文社會學院 院長  
東方語文學系 主任  
黃麗修 謹識

（対訳）

台湾花蓮の慈濟大学と日本九州の尚絅大学は目的、理念が一致し、交流は 2009 年 3 月から始まり、「海内存知己，天涯若比鄰」（心の知れた友がいれば、世界のどこにいても近しく感じる）、12 年が経過しました。

2011 年には、「慈濟大学人文社会学院東方語文学系と尚絅大学文化言語学部の間における学術及び教育の交流に関する協議書」が調印されました。「短期語学留学」「相互研修」、「交換留学」、「日本語教員実習」の 4 項目を含みます。この度正式な調印から最初の 10 周年を迎えることができましたこと、お祝い申し上げます。

2014 年、更に「姉妹校」となり、大学間の交流は順調に進み、教員と学生の無私の献身とたゆまぬ努力によって、学生達に大きな利益をもたらし、恵みがあふれています。

「相知無遠近, 萬里尚為鄰」(親友に遠近は無く、万里離れていてもなお隣にある)、この記念すべき日に、慈済大学と尚綱大学との美しい出会い、喜びの出会い、幸運の出会い、誠実な助け合いにより、「學海無涯勤是岸, 青雲有路志為梯」(学びに終わりはなく、努力することで目標に到達する。確かな意志をもつことで上に登ることができる)、手を携え、第2、第3の10年…時の流れが尽きるまで共に栄えていくことを祈念いたします。

慈済大学人文社会学部 学部長 東方語文学科 学科長 黄麗修

### 3. 交流 10 周年によせて

#### 熊本と台湾・花蓮～尚絅大学と慈済大学交流10周年に寄せて

##### 1. はじめに

10 年前、本学のアジア圏最初の交流先として慈済大学と協定書を交わしました。全てが手探り状態でしたが、相互研修旅行、短期語学留学、交換留学を 3 本の柱として、関係者間で意見交換を繰り返し、課題は少しずつ改善し、一步一步着実に発展させていきました。双方向での学生、教員間の交流が行われ、看板だけではない実質的な相互交流を推進することができ、本学の国際化にも少なからず寄与することができたと思います。

実は、当時はこれほど交流が上手くいくとは思っていませんでした。同じタイミングで両大学ともに交流に前向きだったこと、教員間の意思の疎通が非常に円滑で、学生同士の相性が良かったこと等、多くの点で交流を後押しすることになったと思います。

そしてもう一つの背景として、日本と台湾の交流の歴史も挙げられると思います。交流 10 周年を迎えるにあたり、改めて熊本と台湾・花蓮の交流の歴史をひも解いてみたいと思います。

##### 2. 熊本と台湾

熊本はかつて「先進移民卓越県」に位置付けられ、最も早く「海外協会」を設立(1915 年 7 月 15 日)し、また、満洲、台湾、ハワイ、ブラジル、中南米など全方位に移民を送出していた、日本有数の移民送出県でした。その数は(根拠となるデータにより異なりますが)、広島県に次いで2番目に多く、台湾にも同様に多くの移民が渡っていました。戦後結成された熊本県在住の台湾引揚者の団体「熊本県台湾会」の名簿から、出身地、職業などを分析したことがあります。台湾に渡った熊本の人々は台湾全体に居住し、職業も公務員、会社員、農業、漁業など非常に多様でした。

その中でも教育界での活躍が知られており、特に 1895 年日本の植民統治が開始して間もなく台湾における日本語教育を推進すべく設立された「芝山巖学堂」の創設メンバーの 1 人、平井数馬をあげることができます。1896 年に発生した芝山巖事件という凄惨な事件で平井は殺害されてしまいますが、この時殺害された 6 名の教師はその後「六氏先生」と呼ばれ、むしろ台湾での教育の必要性が広まるきっかけとなりました。現在「六氏先生」は台湾においても教育に命をかけた日本人として知られています。

他にも、熊本農業学校(現熊本県立農業高校)の台湾農政への貢献も挙げられます。台湾における農業の発展に尽力した日本人技師に熊本農業学校出身者が多くいることが明らかにされています。

また、近年 1899 年から設立間もない公学校で、26 年間「雇い教師」として台湾人の教育

に尽力した志賀哲太郎も注目されています。

### 3. 熊本と花蓮

次に、熊本と慈済大学の所在地である花蓮についての関係にも触れておきたいと思います。上述の通り、熊本からは台湾にも多くの移民を送出していましたが、その行き先の一つが花蓮でした。上述の「名簿」では、6119 名中 467 名が花蓮在住者でした。その内訳は会社員、軍人、鉄道関係、郵便関係、農業関係など多種多様でした。そのうち注目されるのが農業移民です。植民統治直後から日本政府は政策としても計画的に各自治体に農業移民（官営移民）を推奨しており、日本全国から多くの農民が参加していましたが、開発の遅れていた花蓮一帯は主要な移民先のひとつでした。「先進移民卓越県」だった熊本はこれに積極的に関与し、花蓮には熊本から多くの人々が渡ったのです。

現在、花蓮には「移民村」と呼ばれる地域、「吉野村」「豊田村」「林田村」があり、当時の建築物（寺院（「慶修院」）等各種建築物）等を補修し観光資源として活用していますが、この「移民村」にはかつて多くの熊本人がいました。これらの地は当時未開の地でしたが、現地の人々と共に開拓を進め、生活を共にしており、終戦・台湾引き揚げまで居住していた場所です。1918 年当時で各村に熊本から 30 名ずつ移民していたことが判明しており、福岡、徳島に次いで 3 番目の人数でした。

相互研修旅行で学生を引率し花蓮・慈済大学を訪問する際は、かつて地元の熊本から様々な事情をもって遠く台湾・花蓮に渡り、開拓し、生活していた人々がいたことに思いをさせてもらえればと、「移民村」を訪問しています。

### 4. おわりに

以上のように熊本と台湾、花蓮の間には浅からぬ関係があります。当時台湾の人々と台湾に渡った日本人との関係は比較的良好で、戦後の台湾の発展に寄与したことは、現在台湾側でも一定の評価がされています。しかし一方で「植民統治」ですからそこには厳然たる差別・区別が存在し、悲惨な事件が引き起こされたことも忘れてはならないことだと思います。今後、熊本と台湾、花蓮、そして両大学の更なる発展のためには、これらの歴史的背景を十分に理解することが重要だと、歴史研究者の端くれとして感じています。

（主要参考文献）

張素玢『台湾的日本農業移民－以官営移民為中心』（国史館、2001 年 9 月）

蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』（不二出版、2008 年 6 月）

荒武達朗「日本統治時代台湾東部への移民と送出地」（『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』第 14 巻、2007 年 2 月）

やまだあつし「1900 年代台湾農政への熊本農業学校への関与」（『名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究』第 18 号、2012 年 12 月）

国際協力事業団「海外移住統計 昭和 27 年度～平成 5 年度」(1994 年 10 月)  
和田英穂「日本統治時代熊本から台湾への移民について」(『尚綱大学研究紀要』第 48 号、  
2016 年 3 月)

尚綱大学現代文化学部 北口(和田)英穂

## 花蓮的日本移民村和台日交流 寫在慈濟大學與尚綱大學交流 10 周年

### 1. 前言

2011 年慈濟東語系和尚綱大學的文化語言學部簽訂交流協定，轉眼間已經十個年頭。這期間兩校進行頻繁、密切而且順暢的交流活動，內容包含交換留學生的派遣、短期語文留學的舉辦和師生的學術文化互訪。活動的內容與方式從最初的試探性舉辦到現階段一切都能按部就班的進行，到現在邁入了第 11 個年頭，可以說是本校與姊妹校之間交流的最佳典範。

這十年兩校的交流能夠如此順利發展與運行，除了搭上國際化的潮流、兩校負責教師的溝通良好、學生的氣質雷同等因素之外，還有就是因為花蓮有許多日治時期的遺跡，這些歷史和地理的背景，讓台日學生產生了交集與共鳴，成為交流的最佳元素，於是在天時、地利、人和的配合下，使得兩校的交流持續至今。

### 2. 花蓮、熊本和日本移民村

從地理環境來看，慈濟大學所在的花蓮市和尚綱大學所在的熊本市，都是屬於中小型的都市，因此兩校的學生氣質都很保守純樸。眾所週知，花蓮的太魯閣峽谷鬼斧神刀，擁有世界級的觀光美名；熊本的阿蘇火山和草千里的自然景色，也具有獨一無二的特色。但是，不可諱言，太魯閣和阿蘇火山風景雖美，但是卻時常受限於天候因素影響無法全面開放，是觀光發展上的一大隱憂。

從歷史的角度來說，花蓮和熊本的淵源早在日治時代就已開始。1899 年日本總督府同意賀田組移民開墾台灣東部(新城至玉里等區域)，東台灣開始出現了日本的移民村。後來因為日本移民政策的影響，決定在台灣東部推行官辦移民，在 1909 年到 1918 年間，陸續在花蓮建立了吉野(全台第一個官營的日本移民村)、豐田和林田等日本移民村。這些日本移民多半來自日本的九州和四國，當時日本政府指定九州的熊本為「先進移民卓越縣」，成立最早的「海外協會」積極推動海外移民政策。據說當時有 6119 位來自熊本的移民，期中有 467 位到了花蓮開墾。這些移民中有教師、公司職員、軍人、鐵路員工、郵政士和農夫等，分別在各個領域耕耘，為當時花蓮的發展貢獻心力。所以對於這些熊本人來說，花蓮就是他們的第二故鄉。

### 3. 日本的移民村和台日交流

由於花蓮地處偏遠的東部，開發較晚，因此許多日本時期的歷史建築得以保留下來。再加上近年來鄉土文史研究風氣大開，政府也致力於歷史古蹟的維護，因此保存了許多日治時代珍貴的文化遺產。這些日治時代的遺跡以當時的移民村為中心，向外環擴散到花蓮各地。以花蓮市周邊為例，有位於花蓮市區的松園別館、花蓮鐵道園區、文創園區、將軍府宿舍群、郭子究故居、花女校長宿舍、舊檢察長宿舍、花蓮港山林事業所、花蓮港



鳥踏石公園的鳥居；在花蓮市郊有慶修院、新城神社，還有位於花蓮縣壽豐的豐田移民村、碧蓮神社鳥居、鳳林的林田山林場、富源的「白川神社」、瑞穗的「紅葉溫泉」等不勝枚舉。這些遺留在花蓮的日本表情，不僅留下許多故事，見證了台日的近代歷史，也是台日人民共同的過去。因此，兩校的交流就從這裡切入，利用花蓮擁有大量日據時代遺蹟的優勢，將台日的交流定調為「花蓮日治時代遺蹟的回顧與觀光發展的未來」，藉由田野調查與實地參訪這些日治時代遺蹟的方式，共同探討、研究與發表，讓兩校的學生在交流中重新認識自己家鄉的歷史、地理和文化，並且反思如何融合這些史地的元素和地方的人文色彩，協助發展地方觀光產業，進而提升兩校國際交流的內涵。

#### 4. 結語

由此可見，花蓮和熊本的淵源久遠流長，因此慈濟與尚綱的交流也被賦予了更深刻的意涵，希望能藉由慈濟與尚綱大學的台日交流，讓這份情緣能更加緊密地延續和發揚。

#### (主要参考文献)

- 翁純敏《吉野移民村與慶修院》(花蓮縣青少年公益組織協會、2008年2月)  
張素玠《台灣的日本農業移民－以官營移民為中心》(國史館、2001年9月)  
賴芷葳《大學「初級日語」的教與學》(尚昂文化、2020年8月)  
蘭信三編《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》(不二出版、2008年6月)  
荒武達朗「日本統治時代台灣東部への移民と送出地」(《徳島大学総合科学部人間社会文化研究》(第14卷、2007年2月)  
やまだあつし「1900年代台灣農政への熊本農業学校への関与」(《名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究》第18号、2012年12月)  
国際協力事業団「海外移住統計 昭和27年度～平成5年度」(1994年10月)  
和田英穂「日本統治時代熊本から台灣への移民について」(《尚綱大学研究紀要》第48号、2016年3月)

慈濟大學東方語文學系 賴芷葳

## 4. 10年間の交流の記録

### 4-1. 慈濟大学中国語センターの取り組み:

#### 慈濟華教良師道 尚綱智者春陽照

每一次互動、每一場交流，串起一年又一年春天和暖相見的約定，留下一年又一年台日大學生相遇的美好。這一切都始於 2013 年由一而生的無量。「心如工畫師，能畫種種物。」身為教師，心心念念都是為了學生，無論是專業上的學習，亦或是國際視野的開拓，因著一念教育的心，老師們化身成萬能者，為學生開創出無限可能，日本華語遊學營就此孕育而生。

華語已成為全球熱門的語言學習選項之一，慈濟大學華語中心自 2013 年起，與日本尚綱大學合作辦理華語遊學營至今已逾九年，每年四週的營隊期間，優質專業的華語課程及豐富多元的中華文化體驗課程都深獲學員喜愛。2020 年新冠疫情爆發前，參與的日本大學更增加數所，包含京都佛教大學、愛知學院大學、奈良女子大學、京都外國語大學、國際醫療福祉大學等知名大學，台日大學生交流成果可謂非常豐碩，更再次驗證了「一生無量，無量由一而生」的佛學哲理。

為期一個月的華語遊學營，不只依每位日本學生的華語程度進行分班、規畫華語課程內容，每日下午的中華文化課程、原住民文化體驗、認識在地宗教文化體驗，還有花蓮在地采風等各式文化類及采風旅遊類活動，在在都希望讓遠道而來的日本學生們在台灣遊學的日子中，天天都能夠被滿滿的美好回憶裝滿。除了課程，認識台灣朋友更是深入台灣文化的速學管道之一！每一年，慈大華語中心都特別安排多位慈大大學二年級以上的同學們擔任輔導員，多數學生來自東方語文學系、人類發展與心理學系、傳播學系、醫學系、護理學系、公共衛生學系等，這一群嚮往日本文化，具有日文能力及服務熱忱的輔導員們主要的工作是利用課餘時間協助日本學生在慈大的生活，包括住宿、用餐、戶外教學體驗等，有些學生甚至在營隊期間自願成為日本同學的室友，台日兩國的年輕人很快地就成為了好朋友。

短短一個月過去，營隊對台日學生所帶來的影響卻從未間斷。翁偉倫同學建立起日文的信心，大學畢業年完成前往日本交換留學的夢想；張卉青同學畢業後前往日本發展，至今仍旅居日本。同樣的，營隊後再次來到台灣的日本學生人數更多，無論是持續華語遊學，或是繼續深造取得學位，青年學子們的出國夢都是在遊學營中萌芽。

十年的歲月，能讓剛出生的嬰兒健康長大並邁入青春期，說長不長，說短也不短，除了感謝尚綱大學校方每年對於華語遊學營的支持外，特別感謝北口英穗教授每年不辭辛勞地與我們聯繫相關事宜、陪伴日本學生來台，點點滴滴的付出，實為人師典範！同時也藉此機會感恩每一位參與並成就每一梯次華語遊學營的師生，以下的每一堂課程、每一位輔導員都為這十年妝點了繽紛的色彩！期待兩校持續交流，繼續寫下每一篇歷史，共同迎接第二個十年的到來！

慈濟大學 華語中心主任 李孝慈

- 2013 年  
營隊日期:2 月 18 日至 3 月 16 日  
尚綱大學學生人數:3 人  
華語教師:李孝慈、葉育修  
慈濟大學學生輔導員:吳筱凡、林宜諤、楊凡瑩、翁偉倫、張卉青
- 2014 年  
營隊日期:2 月 17 日至 3 月 16 日  
尚綱大學學生人數:7 人  
華語教師:陳俊甫、朱紹解  
慈濟大學學生輔導員:吳筱凡、林洳甄、張育綺、翁偉倫、古芳慈、王天民
- 2015 年  
營隊日期:3 月 2 日至 3 月 28 日  
尚綱大學學生人數:10 人  
華語教師:曾麗華、葉育修  
慈濟大學學生輔導員:吳筱凡、林洳甄、張育綺、翁偉倫、古芳慈、王天民、翁子蔓、宋宛蓉、黃昱萍、蘇妙蕙、郭庭伶、李聿文、施宗佑
- 2016 年  
營隊日期:3 月 1 日至 3 月 25 日  
尚綱大學學生人數:6 人  
華語教師:李家蓁、曾麗華  
慈濟大學學生輔導員:施宗佑、徐韻嵐、呂佩芳、林洳甄、翁偉倫、紀婉恬
- 2017 年  
營隊日期:2 月 21 日至 3 月 19 日

尚綱大學學生人數:6 人

華語教師:朱紹解、曾麗華

慈濟大學學生輔導員:馬櫻禎、曾文生、郭庭伶、林莉苓

- 2018 年:因花蓮地震停辦一次。
- 2019 年  
營隊日期:2 月 24 日至 3 月 23 日  
日本學生人數:23 人(含尚綱大學等日本 6 所大學)  
華語教師:朱紹解、王郁瑄、李家蓁、黃聘婷、王渝評  
慈濟大學學生輔導員:曾文生、李湘崑、森下啟慈、張惇絨、林宗儒、邱上權、蕭凱文、李慈恩、許芸萁、陳致蓉、練庭侑
- 中華文化課程:武術功夫、中國結、民俗體育、國畫課、花道課、國劇臉譜、靜思茶道、茶染布、中華美食、童玩製作、漢字拓印、手工線書、剪紙藝術
- 人文講座:花蓮地理人文、慈濟志工在日本、原住民博物館及舞蹈
- 台日學生交流活動:台灣元宵節文化介紹、賞花燈猜燈謎大會、日本女兒節文化介紹、台日美食 PK 賽

(対訳)

慈濟華教良師道 尚綱智者春陽照

交流の度毎に、毎年の暖かい春の出会いを約束し、毎年の台湾と日本の大学生の出会いの美しさを残してくれます。これは全て 2013 年から始まります。「心如工畫師、能畫種種物。」(心は絵師のように、あらゆるものを描くことができる)一人の教師として、全ては学生のために、専門的な学習であれ、グローバルな視野の拡大であれ、教育の心を持つ教師達は万能の者になり、学生達に無限の可能性を与える、こうして日本中国語プログラムは誕生しました。

中国語は世界中で学習される言語の一つとなりました。慈濟大学中国語センターは 2013 年から 9 年以上にわたり、尚綱大学と共同で中国語プログラムを実施してきました。毎年4週間のプログラムでは、質の高い専門的な中国語プログラムと豊富で多元的な中華文化の体験プログラムが学生達の高い評価を得てきました。2020 年新型コロナウイルス感染症爆発前、佛教大学、愛知学院大学、奈良女子大学、京都外国語大学、国際医療福祉大学等参加する日本の大学が増加し、台日大学生の交流による成果は非常に実りあるものになり、また「一生無量、無量由一而生」の仏教哲理の証となりました。

4週間の中国語プログラムのために、はるばる台湾にやってきた日本の学生達が、滞在中毎日素敵な思い出で満たされるため、一人一人の日本人学生の中国語レベル・進度に合わせクラス分けし、中国語カリキュラムの内容を調整し、毎日午後の中華文化プログラム、原住民文化体験、現

地宗教文化体験、花蓮地域の文化理解や小旅行を実施しています。プログラム以外に、台湾人の友人を作ることは台湾文化を知る最も手っ取り早い方法の一つです。毎年慈済大学中国語センターでは、特別に2年生以上の学生達をメンターとしていますが、多くは東方語文学系、人類発展・心理学系、メディア学系、医学系、看護学系、公共衛生学系等の学生が担当しています。日本文化に興味を抱き、日本語力を有し、サービスに熱心なメンター達の主な仕事は、課外時間に日本の学生達の慈済大学での生活、例えば宿舎、食事、学外体験等をフォローすることで、ある学生は期間中日本の学生のルームメイトになることを志願し、台日両国の若者はすぐに親友になっています。

4週間という短い時間が過ぎても、プログラムが台湾と日本の学生に与えた影響は決して途絶えることはありません。翁偉倫さんは、日本語に自信をつけ、大学卒業の年に日本への交換留学の夢を実現しました。張卉青さんは、卒業後日本に行き、現在は日本に住んでいます。また、プログラム後台湾に再訪した日本人学生も多く、中国語研修の継続や学位取得のための更なる学習など、若者たちの海外進出の夢はプログラム中に萌芽しました。

10年の歳月は、生まれたばかりの赤ちゃんが成長し青春期を迎えることができる時間に相当します。それは、長いとも、短いとも言えますが、尚綱大学の毎年の中国語センター中国語プログラムへの協力に感謝すると共に、特に北口英穂教授が毎年労をいとわず私たちと連絡を取り合い、学生を引率し台湾に来られ、献身的に努力されていることに感謝いたします。同時に、この場をお借りして中国語プログラムに関わる先生方、学生のみなさんに感謝申し上げます。

以下のプログラム毎のメンターはこの10年の交流に彩を添えてくれました。これからも両校の交流が続き、歴史の一片一片を刻み、共に次の10年を迎えることを期待します。

慈済大学 中国語センター長 李孝慈

#### ●2013年

プログラム期間:2月18日~3月16日

尚綱大学学生数:3人

中国語教師:李孝慈、葉育修

慈済大学学生メンター:吳筱凡、林宜諤、楊凡瑩、翁偉倫、張卉青

#### ●2014年

プログラム期間:2月17日~3月16日

尚綱大学学生数:7人

中国語教師:陳俊甫、朱紹解

慈済大学学生メンター:吳筱凡、林洳甄、張育綺、翁偉倫、古芳慈、王天民

#### ●2015年

プログラム期間:3月2日~3月28日

尚綱大学学生数:10人

中国語教師:曾麗華、葉育修

慈済大学学生メンター:吳筱凡、林洳甄、張育綺、翁偉倫、古芳慈、王天民、翁子蔓、宋宛蓉、黃昱萍、蘇妙蕙、郭庭伶、李聿文、施宗佑

●2016年

プログラム期間:3月1日~3月25日

尚綱大学学生数:6人

中国語教師:李家蓁、曾麗華

慈済大学学生メンター:施宗佑、徐韻嵐、呂佩芳、林洳甄、翁偉倫、紀婉恬

●2017年

プログラム期間:2月21日~3月19日

尚綱大学学生数:6人

中国語教師:朱紹解、曾麗華

慈済大学学生メンター:馬櫻禎、曾文生、郭庭伶、林莉苓

●2018年

花蓮地震のため中止

●2019年

プログラム期間:2月24日~3月23日

日本人学生数:23人(尚綱大学など6大学)

中国語教師:朱紹解、王郁瑄、李家蓁、黃聘婷、王渝評

慈済大学学生メンター:曾文生、李湘嵐、森下啟慈、張惇絨、林宗儒、邱上權、蕭凱文、李慈恩、許芸萁、陳致蓉、練庭侑

●中華文化体験プログラム:武術カンフー、中国結び、民俗スポーツ、中華絵画、花道、京劇隈取、静思茶道、染め物、中華美食、おもちゃ製作、漢字拓本、線装本、切り絵芸術

●人文講座:花蓮の地理・文化、日本の慈済ボランティア、原住民博物館、原住民の踊り

●台日学生交流活動:台湾元宵節の紹介、ランタン見学、日本のひな祭り紹介、台日美食対決など

## 4-2. 報告:

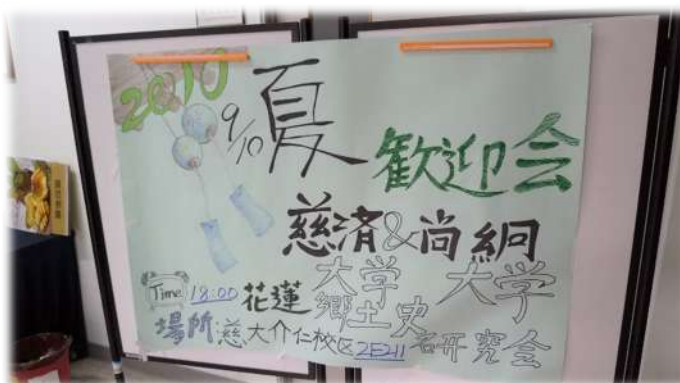
### 尚綱大学と慈濟大学相互交流 10 年間の歩み

#### 1. はじめに

2009 年交流に前向きだった両大学は教員間のつながりをきっかけとして交流が始まった。最初の訪問は 2009 年 3 月、尚綱大学の教員が学生を引率して台湾を訪れ(3 月 4 日～11 日)、花蓮・慈濟大学を訪問した(3 月 8 日～10 日)。花蓮の松園別館、移民村(豊田、林田、吉安等)、太魯閣峡谷を見学する一方、慈濟大学では東方語文学系教員の講演を聞き、学生同士の交流会が行われた。交流会では熊本や花蓮、それぞれの大学の紹介を本学側学生は中国語で、慈濟側学生は日本語で互いに報告した。交流会は慈濟側学生の積極的なアテンドで大いに盛り上がり、学生寮に宿泊させていただき交流を深めた。短期間だったが両学部の学生は専攻が近く、地方大学同士の似た環境もあったせいか、学生同士再会を約束するなど、相性の良さを感じられた。

翌 2010 年には慈濟大学が尚綱大学を訪問した(1 月 20 日～24 日)。熊本市内や阿蘇方面での見学や交流会、阿蘇での合宿などを行った。

熊本着から 4 泊 5 日の全行程で本学の学生や教員が関わり、学生の家庭でのホームステイ受入、阿蘇青少年交流の家での合宿や合同のフィールドワーク、報告会も組み込んだこともあり、台湾訪問時に交流のあった学生はもとより、初めて交流した学生も含めて学生間での交流が大いに進んだ。



その後、2010 年度に再度双方で訪問を行った(2010 年 9 月 10 日～13 日尚綱から慈濟、2011 年 1 月 19 日～23 日慈濟から尚綱)。その間交流協定締結に向けて、看板だけの「交流協定」にならないために、そして対等で実質的な交流を伴う相互交流を推進するために、様々な角度から慎重に検討を進めた。その結果、具体的な交流内容として、交換留学、短期語学留学、研修旅行を双方向で行うことに加えて、本学の日本語教員養成講座の日本語教育実習を慈濟大学で行うことも含むことになった。

2011 年 9 月 21 日～26 日、3 回



目の訪問を行い、学生同士の交流会などを行うとともに、学部間協定(尚絅大学文化言語学部と慈済大学東方語文学系)の調印式を行い、交流協定を締結した。これは本学初のアジア方面の大学との交流協定であり、その後の交流協定の基本となった。

その後、2011年2月尚絅から慈済へ、4月慈済から尚絅へ、それぞれ2名ずつの交換留学(1期目は半年間)から正式に両校の相互交流がスタートした。



## 2. 相互交流の実践

覚書を交わしている交流内容は以下の通りである。

### ①相互研修旅行

毎年交互に訪問。受入側の学生が主導して交流会や合同フィールドワーク、報告会などを開催。

### ②短期語学留学

毎年開催。尚絅から慈済は毎年春期休暇中の4週間(3月頃)に設定され、主に慈済大学の「華語中心」(中国語センター)が受入主体となり、中国語研修と各種文化体験、小旅行などのプログラムが生まれ、また東方語文学系などの学生との交流活動も行われてきた。慈済から尚絅は2014年度から毎年夏季休暇中の3週間(7月頃)に設定され、これまでは文化言語学部・現代文化学部が受入主体となり、日本語研修と各種文化体験、授業体験、小旅行、交流活動などのプログラムが組み込まれてきた。

### ③交換留学

毎年2名の学生を交換(半年間か1年間を選択)。尚絅から慈済は9月頃スタート(2019年度からは2月頃スタートに変更)、慈済から尚絅は10月からスタート。学費、寮費は相殺で、それぞれ受け入れ先で学生チューターを配置。

### ④日本語教員養成講座の日本語教育実習

尚絅大学の日本語教員養成講座の実習先として、慈済大学東方語文学系で受け入れる内容。

2011年以降の交流協定締結後の参加者の推移は表1の通りである。このうち2016年度の慈済から尚絅への短期留学、相互研修の中止は2016年4月16日に発生した熊本地



震、2017年度の尚綱から慈濟への短期留学の中止は2018年2月6日に発生した花蓮地震の影響を受けたものである。また、2019年度(2020年3月派遣予定)の尚綱から慈濟への短期留学の中止は新型コロナウイルスの影響を受けたものであり、翌2020年度以降は全ての活動が延期、中止になっている(2021年10月現在)。

【表1 尚綱大学・慈濟大学間の交流活動参加学生数(2011~2019)】

| 【派遣】 | 年度   | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 計  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 尚綱大学 | 交換留学 | 2    | 2    | 2    | 2    | 1    | 2    | 0    | 2    | 1    | 14 |
|      | 短期留学 | /    | 5    | 7    | 10   | 6    | 6    | 中止   | 6    | 中止   | 40 |
| 慈濟大学 | 相互研修 | 19   | /    | 5    | /    | 8    | /    | 18   | /    | 7    | 57 |
|      | 【受入】 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
| 慈濟大学 | 交換留学 | 2    | 2    | 1    | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    | 1    | 16 |
|      | 短期留学 | /    | /    | /    | 20   | 10   | 中止   | 0    | 8    | 18   | 56 |
| 尚綱大学 | 相互研修 | /    | 12   | /    | 9    | /    | 中止   | /    | 11   | /    | 32 |

## 2-1. 相互研修旅行(交互に実施)

相互研修旅行は毎年交互に実施している。その内容は以下の通りである。

### 【平成24(2012)年度】慈濟⇒尚綱

期間:2012年7月4日~8日 宿泊先:ホームステイ(2泊)、阿蘇青少年交流の家(2泊)

参加者:慈濟側教員2名、学生12名

内容:熊本市内探索後、交流会、授業体験、特別講義を楡木キャンパスで行い、阿蘇青少年交流の家で合宿を行った。新たに域学連携の取り組みの一つとして、阿蘇地域振興デザインセンターの協力のもとで、「阿蘇地域の地域振興について~町づくり、外国人観光客受入を中心に」というメインテーマで阿蘇各地を巡り、両校の学生同士のグループでフィールドワークと合同報告会を行った。

サブテーマとして、以下の場所を訪問した。

#### ①「ビラパークホテル」グループ

⇒外国人観光客を積極的に受け入れるホテルの実践を調査

#### ②「阿蘇神社門前町」グループ

⇒シャッター街であった門前町を現在の活気ある街に変えた実例を調査

#### ③「ジオパーク」グループ

⇒阿蘇の大自然を生かした地域振興の取組を調査



【平成 25(2013)年度】尚綱⇒慈濟

期間:2013年9月10日～9月15日 宿泊先:花蓮(3泊)、台北(2泊)

参加者:尚綱側教員1名、学生5名

内容:交流会、文化体験(「静思茶道」という慈濟独自の中国茶を用いた茶道体験)、合同フィールドワーク・報告会を開催。フィールドワークのテーマを「台湾・花蓮の観光政策」として、花蓮の観光地(慶修院、林田村などの日本移民跡地、光復砂廠、松園別館などの日本統治時代の跡地など)を巡り、課題と解決策を検討した。また、学生同士夜市巡りをして、台湾の食文化を体験しつつ、交流を深めた。

【平成 26(2014)年度】慈濟⇒尚綱

期間:2014年7月9日～13日 宿泊先:ホームステイ(2泊)、阿蘇青少年交流の家(2泊)

参加者:慈濟側教員2名、学生9名

内容:熊本市内探索後、交流会、授業体験、特別講義、文化体験(新たに茶道体験、着付け体験を実施)を楡木キャンパスで行い、阿蘇青少年交流の家で合宿を行った。同交流の家プログラムである「水基巡り」等に参加し、阿蘇の自然・文化理解に努めた。新たな取り組みとして、それぞれ学習中の言語による朗読会を開催した。



【平成 27(2015)年度】尚綱⇒慈濟

期間:2015年9月13日～9月18日 宿泊先:花蓮(3泊)、台北(2泊)

参加者:尚綱側教員1名、学生8名

内容:交流会、文化体験(「静思茶道」)、合同フィールドワーク・報告会、夜市体験を実施。花蓮市内の案内版やメニューの日本語表記の現状を調査した。また、タロコ溪谷や七星潭などの台湾の大自然を見学した。



【平成 28(2016)年度】慈濟⇒尚綱

熊本地震により中止

【平成 29(2017)年度】尚綱⇒慈濟

期間:2017年9月10日～9月15日 宿泊先:花蓮(1泊)、台北(4泊)

参加者:尚綱側教員1名、学生8名

内容:例年通り花蓮で3泊する予定だったが、台風が急接近したため急遽1泊に変更し、交

流会と茶道体験、松園別館の見学などスケジュールを縮小して実施した。

【平成 30(2018)年度】慈濟⇒尚綱

期間:2018年7月4日～8日 宿泊先:寮(3泊)、山鹿市内旅館(1泊)

参加者:慈濟側教員1名、学生11名

内容:熊本市内探索後、交流会、授業体験、特別講義、文化体験(茶道体験、着付け体験および新たに七夕体験を実施)を武蔵ヶ丘キャンパスで行い、新たな取り組みとして企業見学を実施した。台湾とのインバウンド・アウトバウンドに積極的な熊本電気鉄道株式会社の協力を得て、北熊本駅にて同社の案内、台湾人観光客に人気のくまモン列車に乗車するなどの体験活動を行った。その後台湾からのインバウンド観光に取り組む山鹿市内を訪問し、山鹿市役所商工観光課担当者からインバウンド観光の取り組みについての講話を受けた後、山鹿市内のフィールドワーク、報告会を実施した。



【平成 31・令和元(2019)年度】尚綱⇒慈濟

期間:2019年9月9日～9月14日 宿泊先:花蓮(2泊)、台北(3泊)

参加者:尚綱側教員1名、学生8名

内容:交流会、文化体験(「静思茶道」)、合同フィールドワーク、夜市巡りを実施(報告書は別途提出)。新たに中国語学担当教員による授業体験が実施された。今回のテーマは「台湾・花蓮に残る日本」とし、松園別館、慶修院、鉄路博物館、文創園區を訪問し、現在なお残る「日本」について調査した。



【令和 2(2020)年度・令和3(2021)年度】

新型コロナウイルス感染症流行により中止

## 2-2. 短期語学留学(尚綱⇒慈濟)※2012年度から毎年実施

尚綱大学から慈濟大学への短期語学留学については、以下の通りである。毎回若干の内容の修正はあるが、基本的には以下の内容、スケジュールで行われてきた。

①中国語:月曜日～金曜日、毎日午前中3時間(1コマ50分)、計60時間。週4日は「総合」(文法、ヒアリング、単語など)、週1日は「会話」。

②文化:月曜日～木曜日、毎日午後2時間。中国書道、中国茶道、中国武術、台湾少数民族

文化、「人文講座 1～4」など。

③施設見学:「静思堂」(慈済の記念館)見学、「台湾原住民博物館」見学など。

④東方語文学系との交流活動(合同フィールドワーク):毎週金曜日～週末にかけて、テーマ別に合同でフィールドワークを実施。最後に成果を発表する。

⑤寮での共同生活:東方語文学系の学生と同部屋での共同生活を通じ、中国語の実践力アップと台湾理解を目指す。

⑥中国語の成績等を評価した上で「海外語学研修(中国語)」(2単位)として認定

【時間割例:平成 24(2012)年度(第1週)】

|             | 2/17(日)             | 2/18(月) | 2/19(火)                   | 2/20(水) | 2/21(木)              | 2/22(金) |
|-------------|---------------------|---------|---------------------------|---------|----------------------|---------|
| 7:30 - 8:30 | 台北→<br>花蓮<br>16 時頃着 | 朝食      |                           |         |                      |         |
| 9:00 - 9:50 |                     | 中国語     | 中国語                       | 中国語     | 中国語                  | 中国語     |
| 10:10-11:00 |                     | 中国語     | 中国語                       | 中国語     | 中国語                  | 中国語     |
| 11:10-12:00 |                     | 中国語     | 中国語                       | 中国語     | 中国語                  | 中国語     |
| 12:00-14:00 |                     | 昼休み     |                           |         |                      |         |
| 14:00-16:00 | 静思堂<br>見学           | 中国茶道    | 人文講座 1<br>(慈済のポラ<br>ンティア) | 武術功夫    | 東語系交流<br>活動<br>(金、土) |         |
| 17:30-19:00 | 開業式                 | 夕飯      |                           |         |                      |         |
| 19:00-23:00 |                     | 自習      |                           |         |                      |         |
| 23:00       |                     | 就寝      |                           |         |                      |         |

通常の語学研修プログラムは午前が語学の授業で、午後はフリーか数回体験がある程度だが、本プログラムは午後も各種体験活動が組まれており、非常に充実した内容になっている。また、現地学生と同じ学生寮に宿泊し、同部屋には台湾人学生が配置されることで、24時間中国語環境が実現されている。

各年度の実施時期、参加学生数は以下の通りである。

| 年度            | 期間                       | 学生数 |
|---------------|--------------------------|-----|
| 平成 24(2012)年度 | 2013 年 2 月 17 日～3 月 16 日 | 5   |
| 平成 25(2013)年度 | 2014 年 2 月 17 日～3 月 16 日 | 7   |
| 平成 26(2014)年度 | 2015 年 3 月 2 日～3 月 28 日  | 10  |
| 平成 27(2015)年度 | 2016 年 3 月 1 日～3 月 25 日  | 6   |
| 平成 28(2016)年度 | 2017 年 2 月 21 日～3 月 19 日 | 6   |

|               |                          |   |
|---------------|--------------------------|---|
| 平成 29(2017)年度 | 中止(花蓮地震のため)              |   |
| 平成 30(2018)年度 | 2019 年 2 月 24 日～3 月 23 日 | 6 |
| 平成 31(2019)年度 | 中止(新型コロナウイルスのため)         |   |

### 2-3. 短期語学留学(慈済⇒尚綱)※2014 年度から毎年実施

慈済大学から尚綱大学への短期語学留学は 2014 年度からスタートしており、その内容は概ね次の通りである。

午前中は日本語研修、午後に各種文化体験や授業体験、週末に小旅行を配置したプログラムであり、好評を得て、その後のプログラムもこの内容を踏襲して行われてきた。



#### 【時間割例:平成 26(2014)年度(第1週)】

|             | 1/19(月) | 1/20(火) | 1/21(水) | 1/22(木) | 1/23(金)    | 1/24(土)       |
|-------------|---------|---------|---------|---------|------------|---------------|
| 9:00-9:45   | 自己紹介    | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語        | 【小旅行】<br>阿蘇周遊 |
| 9:55-10:40  | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語        |               |
| 10:50-11:35 | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語        |               |
| 11:45-12:30 | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語     | 日本語        |               |
| 午後          | 歓迎会     | 茶道体験(1) | 熊本市内散策  | 特別講義(1) | 尚綱高校訪問・交流会 |               |

このうち毎回特に好評なのは茶道体験である。武蔵ヶ丘キャンパスの茶室は表千家の専門家の監修によるもので、その先生による体験を週1回、計3回実施している。その後の期間、学生数などは以下の通りである。

| 年度            | 期間                      | 学生数 | 備考          |
|---------------|-------------------------|-----|-------------|
| 平成 26(2014)年度 | 2015 年 1 月 19 日～2 月 6 日 | 20  | 尚綱高校、大津高校訪問 |
| 平成 27(2015)年度 | 2015 年 7 月 13 日～8 月 1 日 | 10  |             |
| 平成 28(2016)年度 | 中止(熊本地震のため)             |     |             |

|                       |                  |    |              |
|-----------------------|------------------|----|--------------|
| 平成 29(2017)年度         | 中止(参加者無しのため)     |    |              |
| 平成 30(2018)年度         | 2018年7月4日～7月20日  | 8  | 電鉄見学、山鹿市役所連携 |
| 平成 31・<br>令和元(2019)年度 | 2019年7月9日～7月26日  | 18 | 黒川温泉旅館組合連携   |
| 令和元年(2020)年度          | 中止(新型コロナウイルスのため) |    |              |

これらのプログラムにおいては、様々な学外での交流活動やグローバルな取り組みと合わせた小旅行を以下のように企画、実行してきた。

2014 年度:

尚綱高校や大津高校における交流会の実施。前者は国際交流に関心ある高校生が中心となって行われ、後者は台湾修学旅行に参加してことのある高校生が中心となって行われた。

2018 年度:

研修旅行の受け入れと同時期に熊本電鉄の企業見学や山鹿市訪問などを行った。

2019 年度:

積極的に外国人観光客を受け入れている黒川温泉旅館組合と連携して、黒川温泉の取り組みの紹介をしたのち、実際に温泉旅館に宿泊し、台湾人若者目線で旅館や黒川温泉を観光する際の課題を考え、最後に同組合側にプレゼンを行った。



#### 2-4. 交換留学

2011 年度よりスタートした各年度の交換留学の派遣、受入人数は以下の通りである。

|           | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 計  |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 尚綱⇒<br>慈濟 | 2    | 2    | 2    | 2    | 1    | 2    | 0    | 2    | 1    | 14 |
| 慈濟⇒<br>尚綱 | 2    | 2    | 1    | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    | 1    | 16 |

このうち 2011 年度のみ双方とも半年間で実施した。また、尚綱大学から慈済大学への派遣のうち、2017 年度は希望者がゼロ、2018 年度は 2 名のうち 1 名は半年間だった。慈済大学から尚綱大学への派遣は、2018 年度は 2 名のうち 1 名が半年間だった。

交換留学は基本的に現地学生と同じ条件で派遣先大学の正規の授業を履修登録し受講、試験を受け 60 点以上で単位を取得する。帰国後にそれぞれの大学に持ち帰り認定することになる。したがって、受講の際にはそれぞれの語学や専門領域の理解の程度が重要になり、実際にはその程度によって受講できる科目は限られることになる。慈済大学からは 3 年生か 4 年生を終えて尚綱大学の後期から派遣されるケースが多く、比較的問題は少なかった。尚綱大学から派遣する学生は当初 2 年後期から派遣していたため、受講するのに困難が多く、2019 年度より 3 年前期派遣に変更した。

半年間か 1 年間という留学によって、双方ともに学生の経験値を飛躍的に高めた。尚綱大学からの派遣学生の多くが「漢語水平考試」(HSK)5 級以上の中国語を身に付け、慈済大学からの派遣学生の多くは日本語能力試験 1 級(N1)レベルに達した。

## 2-5. その他～「地震」を巡る交流

慈済大学との交流は上述の覚書を交わした内容以外に、単発で様々な活動を行ってきた。

地震の多い日本と台湾、慈済との交流 10 年余りの間に双方で大きな地震が発生した。2016 年 4 月 16 日熊本地震、2018 年 2 月 6 日花蓮地震が発生し、短期留学の中止など交流活動に支障が生じた。一方、熊本地震の際には慈済大学の母体である「慈済基金会」が日本支部を中心に支援活動に入り、大津町を拠点に 2 か月以上炊き出しなど被災者支援を展開した。その際、尚綱大学の学生ボランティアも参加したことは慈済大学側にも報告された。また、2 年後の花蓮地震の際には尚綱大学学内で募金を集め、慈済大学に寄付された。地震大国同士の支援活動により双方のイメージが向上したことは知られているが、尚綱大学と慈済大学の間においても、双方の支援活動により交流が深まる結果となった。

また、2017 年 5 月 26 日から 6 月 1 日にかけて、慈済大学社会福祉系の教員 3 名・学生 20 名の実習を受け入れた。熊本県内の福祉施設見学と共に、大津町と益城町の仮設住宅などを訪問し、支援イベントを実施した。スケジュールは以下の通りである。

5 月 26 日(金)来熊、九品寺キャンパスで交流会



- 5月27日(土)午前:尚綱高校で交流会 午後:合同で熊本市内散策
- 5月28日(日)大津町で被災者支援イベント(大津町社会福祉協議会と連携)
- 5月29日(月)玉名市福祉施設(「たいめい苑」)見学
- 5月30日(火)益城町で被災者支援イベント(益城町在住城本氏と連携)
- 5月31日(水)熊本市福祉施設(「ヴィラ九品寺」)見学、総合生活学科学生と意見交換
- 6月1日(木)福岡へ

このうち大津町や益城町における被災者支援は、慈済大学の学生手作りのイベント(台湾先住民族のダンスや台湾の小物製作など)が行われ、現地住民の方に大いに喜んでいただき、その様子はテレビのニュースでも放映された。



### 3. 参加した学生の声

【交換留学(尚綱⇒慈済)】

・加来愛美さん(文化言語学部 2013 年度卒)【2012 年度交換留学、1 期生】

慈済大学への半年間の交換留学の中で、現地の学生との寮生活、学校生活は自分で考える力、行動力、物怖じしないで挑戦する気持ち、積極性が成長出来たと感じます。半年間の留学は中国語が全く出来なかった私にとって最初は過酷で勇気がいるものでしたが、様々な面で強くなれたところは良かった点だと思います。

学生時代の留学は自分を大きく変えてくれたものです。外国や、外国人への偏見はなくなり、海外旅行先や国内の町中でも気軽に話しかけられるようになりました。現在ではプライベートで旅行に行くほど台湾が大好きになりました。現地の友達が出来たおかげで旅行では案内してもらえたり、SNS を使って中国語の分からないところや日本語の分からないところを教えあったり、日本の友達とは出来ないことが出来ることは貴重なことです。

時間が巻き戻せるならもう一度半年間過ごしたいほど、本当に有意義で楽しい貴重な時間でした。学生の時ほどの語学力は失われましたが、中国語も台湾も大好きな気持ちは変わりません。まだ何回でも旅行に行けるように仕事をしながらでも、語学を維持しながら過ごして行きたいと思います。



・津曲弥也さん(文化言語学部 2013 年度卒)【2012 交換留学、1 期生】

私は中国語もままならないまま留学してしまい、大変苦労したことを覚えています。特に正規の授業を受けるのはとても大変でした。留学生向けの中国語の授業では、知らない単語やイディオムを日本語の無い環境下で留学生同士意味を模索しながら、沢山覚えました。

あっという間に半年の期限が近づき、私は漸く周囲の会話が徐々に聞き取れるようになって、喋ることも出来るようになっていました。自分の成長が分かり、まだ成長できるというこの時期に終わってしまうことが本当に惜しくなり、担任に留学期間を伸ばしてほしいと嘆願のメールを送るほどでした。

思い返してみると、留学というのはとても大変でした。しかし、それと同時に得られるものもとても多かったと思います。日本と異なる環境下で暮らすことは見識を広めることになり、興味のなかった海外に目を向けることが多くなりました。日本語の無い環境は言語習得に適していたし、自身の行動力そのものを変えてくれました。

・矢須田葉月さん(文化言語学部 2014 年度卒)【2012-13 交換留学】

わたしは一年間、慈済大学へ留学していました。語学の授業や大学の授業はもちろん学生寮で慈済大学の学生たちとの共同生活はとても有意義なものでした。大学の授業はとても難しいものでしたが、慈済の学生に教えてもらったり日本語を教えたりと協力し合うことで、理解を深め、友情を育むことができました。

学生寮では英語学科の学生と同室で、彼女たちとは授業などで接点はなく、日本語は全く話せませんでした。それが語学力を鍛えられる良い機会となりました。他の学科の学生たちともとても仲良くなり、今でも連絡を取り合っている人たちもいて、一生の友達が出来たと思っています。人生をかえる重要な経験となりました。

・福島知美さん(文化言語学部 2015 年度卒)【2013-14 交換留学】

まずは 10 周年おめでとうございます。

高校生の頃から海外の文化への興味はあり、入学してすぐの学部説明会で台湾の大学との交流があることを知り、その日のうちに先生の部屋を訪ねたことを今でも覚えています。台湾は親日としても有名で、夏にあった交流会に参加して、さらに実感しました。慈済の学生さんはとても気さくで、好奇心旺盛で、優しく。そんな学生さんと交流するうちに、生活している台湾に行ってみたいと思うようになりました。

短期留学で台湾の文化を実際に体験して、学んだばかりの中国語で意思疎通ができた時は本当に嬉しく思いました。交換留学した際に学生さんの家に泊めてもらい、新年を迎えたことは今でも大切な思い出です。今でもその学生さんとは友人として連絡をとったりしています。

海外へ踏み出すきっかけとしても、見聞を広めるきっかけとしても、慈済との交流があることは得にしかならないと思います。今後もこの繋がりが長く長く続くことを願っています。

・長野有紗(文化言語学部 2018 年度卒)【2016-17 交換留学】

私の 1 番の思い出は留学中の現地学生との寮生活です。初めは中国語を聞き取るともままならない状態でのスタートでしたが、ルームメイトと辞書やジェスチャーを使いながら一生懸命に会話しようと取り組んだことはとても思い出に残っています。

とても嬉しかったことは、私が日本人ということで、ルームメイトの子たちが、日本語に興味を持ち、日本語の授業を受講してくれたことです。テストが近づくと、音読の練習を毎日していたり、わからないところは質問に来てくれたりしました。

お互いの母国語へ興味を持ち、勉強し、交流することは、お互いを理解するためにも、とても大事で素敵なことだと思います。慈済大学の学生と交流することができ、とてもよい経験ができました。

・玉田悠(文化言語学部 2019 年度卒)【2016-17 交換留学】

初めての海外だった台湾研修旅行では、短い期間でしたがとても充実していて、台湾の人柄から文化に興味を抱くようになりました。その後短期留学にも参加し、交換留学へと進みました。当初は自分の語学力の無さに落ち込みましたが、それを糧に自分からアクションを起こし、中国語を身に付けていくことでグローバルな一面を養うことができたと思います。

交換留学から帰国後には、就職後も中国語を活かすのであれば台湾人だけではなく中国人のニーズを知る事が必須と考え、トビタテ！留学 JAPAN にて上海へ約 9 か月間の留学にも行きました。

このような国際交流の経験によって、自分の性格は留学前と比較すると大いに変わったと思います。以前は常に受け身態勢でしたが、今では何をするにも自分から行動・発信するようになりました。自分が主体となってアクティブに行動するようになったほか、何事にも挑戦してみたいというチャレンジ精神が養われたように思います。

【交換留学(慈済⇒尚綱)】

・鄒 玟津さん(慈済大学東方語文学系)【2018-19 交換留学】

我記得剛到尚綱大學沒多久，就要在語學成果發表會上用全日文演講，且要在幾周內寫出一篇介紹自己家鄉的講稿，那時寫出來的第一個版本簡直慘不忍睹，不但被山川老師要求重寫，講稿也來來回回修改了好幾次，並且在會話課上不停地練習發音。雖然努力準備了，但在上台之後，我緊張到只能緊抓著自己的講稿，拚命地唸，連 PPT 都忘了按，一心只想趕快結束這可怕的時刻。

還有一次是和老師們一起去附近的高中介紹台灣、教中文，明明和同學們一起準備了很久，也練習了很多次的講稿，但沒想到只剩下自己在台上的時候還是緊張到不停地卡詞。

雖然剛開始的表現都不甚理想，不過在那之後也有許多機會上台演講或是發表自己的意見，讓我可以不斷地練習、犯錯，然後修正，一步一步地慢慢進步。到最後，我不但可以順

利地和同學們聊天，不用再依賴翻譯軟體，且在留學生的歡送會上，在幾乎沒有講稿的情況下，配合 PPT 順利地完成最後一次的演講。

感謝慈濟和尚網給了我這個難能可貴的經驗，也很感謝老師們不停地把我推上台，讓我有許多機會開口練習，也很謝謝陪伴我學習的同學們會在我犯錯的時候糾正我，讓我可以馬上發現錯誤並及時修正。我最感謝的是北口老師在我到達日本第一天對我說的那句話：「要用日文思考，才會進步。」

#### ·王 薏捷さん(慈濟大学東方語文学系)【2016-17 交換留学】

我是 2016 年到尚綱大學交換的學生。交換生活已經是五年前的事了，不禁感慨時間過得非常快。那年是我第一次到熊本。在這之前不乏有到日本觀光的經驗，但大多是到東京、大阪等大都市。這是我第一次到日本相對鄉下的地方，最初以為生活會很不方便，不過熊本清幽的生活步調不僅沒有感到不便，反而更能貼近日本人的一般生活，和人潮壅擠節奏快速的東京相比有著不一樣的人情味。

學期間交換生都會特別被安排上日文課程，老師們都非常照顧我們。課堂上總會有日本風的小點心，在愉快的氣氛下大家一邊上課一邊享用。比較進階一點的會話，老師總會給我們很多開口的機會，互相分享台日間文化的差異或生活上的趣事。不僅如此還會舉辦校外教學，帶我們到熊本各處的景點觀光。真的是非常感謝老師們的照顧！

除了交換生的課程，另外還有和日本學生一起跪坐到腳麻，再一起享用美味和菓子的茶道課、第一次嘗試覺得很新鮮有趣的花道課以及剛開始穿很複雜，熟練後就能穿的很漂亮的和服課，不管是日文課還是一般的課都非常有趣還能實際親身體驗到日本文化。

那一年間，除了平常上課之外還有跟中文社的大家一起練習翻譯、在夏日祭典擺攤賣滷肉飯、參與學園祭、和日本學生們一起思考如何推廣大津町，後半年還有跟韓國的交換生一起交流。一整年不只日文進步快速，而且過得非常充實且滿足。

現在因為 Covide-19 的關係大家無法像以往一樣自由地到日本，所以格外的懷念留學的時光。等疫情平緩，出國可以來去自如時，希望可以找機會回去尚綱大學一趟。

#### ·林 芳宇さん(慈濟大学東方語文学系)【2014-15 交換留学】

日本已經要準備入秋了，想必在武蔵ヶ丘キャンパス留學過的留學生，都還記得校園裡那一片黃澄澄的銀杏吧，距離我當交換留學生的日子已經過了五年左右，當初因為學姊的鼓勵才幸運得到來尚綱大學交換的機會，當時的我其實蠻擔心我的日文程度的，但憑著一股試試看的心情就出發了。現在看來，當初交換的經驗比起日文進步，讓我意識到與其以國籍所產生的刻板印象，還不如享受每個人不一樣的多樣性。

出國會遇到的就是文化差異，例如宿舍沒有個人衛浴而是澡堂，雖然很害羞但後來習慣之後就覺得每天要泡熱熱的澡才舒服。當然留學生有專門的日文課以外，其他課也能自己選擇。其中，日本文化傳統這門課讓我印象非常深刻，上學期是教我們如何穿和服，而且還有專用的和室能夠練習。下學期則是茶道的課，雖然一直正座到腿都麻了，但每堂課都

能搭配不同時節的和果子和茶碗，現在想想真的是非常幸福而且珍貴的一件事情呢。另外，

我還選了多文化共生和日本語表現的課程，以日本的觀點來上這兩門課讓我對於日文學習有其他的方法。除了校園內的生活以外，老師推薦我們參與熊本縣內大學的留學生交流活動，生活過得非常的充實。關於日文不好的這件事情，也因為小老師還有宿舍的同學和學妹的照顧所以沒有太大的問題，而當時的朋友到現在也都還有保持聯絡。

#### 【短期語学留学(尚綱⇒慈濟)】

・川原彩代さん(文化言語学部 2018 年度卒)

慈濟大学の学生のみなさんとの交流を振り返ると、様々なエピソードが頭に浮かびます。その中でも特に台湾での約 1 ヶ月間の短期留学の時間が私にとって深く印象に残っています。この短期留学では、慈濟大学のみなさんに学習面も生活面も大変お世話になりました。短い間でしたが、私は慈濟大学のみなさんの温かい気遣いや日々貪欲に学ぼうとする姿勢に感動し、いつもパワーを貰っていました。今思うと宿舎で同じ部屋だった方と将来の夢を話したり中国語の歌を教えてもらったりした些細な時間さえも非常に充実していたなと思います。私は社会人になってから数年経ちますが、お世話になったみなさんは今頃どうしているだろう、とふと思いを馳せることもあります。

そして、慈濟大学から来た留学生の中には、今も定期的に連絡を取るような友人もいます。彼女のアグレッシブな言動がいつも私を奮い立たせてくれ、本当に出会えて良かったなと思っています。

慈濟大学と尚綱大学の交流によってたくさんの出会いがあり、そのひとつひとつが私にとってかけがえのない財産となりました。今後とも友好的な関係が末長く続きますように祈っています。

・小林里乃香さん(文化言語学部 2018 年度卒)

在学中は短期留学・長期留学の受け入れや大津町への被災地訪問等様々な活動を通して慈濟大学の学生と交流を行いました。これらの活動では日本語学科の学生だけでなく、他学科の学生との交流もでき、幅広い交流と経験ができました。

その中でも一番の思い出は、慈濟大学への短期留学です。私の初海外！それこそこの短期留学でした。興味はあったものの、なかなか挑戦できなかった海外留学でしたが、実際に行ってみると現地で学ぶ中国語は実用性が高く、語学力アップを実感できました。台湾人の友達もたくさんでき、参加してよかったと心から思っています。

在学中のこれらの活動に背中を押され、今は台湾で大学院生活を送っていますが、慈濟大学との交流で知り合った友人とは、時々ご飯に行くなど今でも交流が続いています。コロナ禍により以前とは交流のツールも変わってきますが、今後も交流を通して、両校のより多くの学生が様々な経験ができることを願っています。

・直塚茉優さん(文化言語学部 2019 年度卒)

私が慈濟大学に行ったのは 1 ヶ月間という短い期間でしたが、とても中身の濃いものとなりました。

この時、初めての海外で不安半分、期待半分でした。しかし、慈濟大学の学生や先生方はとても親切で、中国語の授業はもちろんですが、現地の観光案内や生活のサポートまで丁寧に対応してくださり、楽しい短期留学となりました。

なかでも印象的だった活動は、太魯閣に行ったことです。台湾といえば、台北のイメージが強く、屋台や九份が真っ先に思い浮かんでいましたが、太魯閣に行き、雄大な景色に圧倒されたのを覚えています。

太魯閣では長時間歩きながら、慈濟大学や語文中心の学生とお喋りをしたのが印象に残っています。私は中国語がほんの少しか理解できるというレベルだったので、会話を成立させるのに苦戦するという状況でした。なんとか分かる中国語や英語で伝え、相手の話を汲み取り…という、頭をフル回転させながらのなかなかハードなお喋りでしたが、伝わった時や新たな発見があった時には達成感を感じられました。この時、言語や文化の違う人たちとコミュニケーションをとることの面白さも感じました。

慈濟大学での短期留学は、私の中国語をもっと学びたいという意欲にも繋がりました。帰国後も中国語の勉強や慈濟との交流を引き続き取り組みました。また、社会人になった今でも中国語の勉強は続けています。

慈濟大学への短期留学は楽しそうだから行ってみようかな、という軽い気持ちでしたが、実際に行ったことで確実に今の私に繋がる大きなきっかけとなりました。楽しい思い出と友人もできました。また機会があれば、花蓮や慈濟大学にも行きたいです。

尚綱大学現代文化学部 北口(和田)英穂

## 慈濟大學與尚綱大學國際交流 10 周年紀念報告

### 一、緣起

常說「相逢自是有緣」，慈濟大學和尚綱大學的緣起自 2009 年 3 月，尚綱大學文化語言學部首度來訪慈濟大學，經過 2010 年雙方的互訪(1 月慈濟訪尚綱、9 月尚綱訪問慈濟)，2011 年 1 月慈濟二度訪尚綱，終於在 2011 年 9 月尚綱大學三度訪問慈濟時，東語系與尚綱大學文化語言學部締結交流協定，從此奠定了兩校穩定而互動良好的交流模式。從 2011 年簽訂交流協定至今，很快地 10 年過去了，今天筆者想藉由兩校交流 10 周年的機會，好好地回顧一下這些年來我們交流的軌跡和成果。

### 二、交流的歷史與內容

#### 1、交流的歷史

尚綱大學的文化語言學部(學部相當於我們的學系，前身為文學部)成立於 2006 年，教學方向由以往偏重英語學科的課程轉為包含中文、韓文、中國文化、韓國文化等重視東方文化科目課程，因此創立之後便積極尋求與東亞各大學的交流。在經過多方打聽之後，發現慈濟大學的東語系在規模上與文化語言學部相當，又具有女生比例高、設置有中文組和日文組專攻等共通性，於是透過當在尚綱大學教授漢文學的加藤教授的牽線，連絡上東語系的李育娟老師，表達希望交流的意願。2009 年 3 月尚綱大學的北口老師首度帶領學生拜訪慈濟大學，受到東方語文學系日文組師生的熱烈歡迎，在李育娟老師經精心安排之下，兩系學生一同參觀了松園別館、移民村(豐田、林田、吉安)、太魯閣，舉行教師演講會、學生交流會等交流活動，開啟了兩校交流的大門。隔年 2010 年 1 月李育娟老師帶領東語系學生回訪尚綱大學，同年 9 月尚綱二度訪問東語系，當時由於李玉娟老師離職，為了讓國際交流的種子能夠持續發芽長大，於是筆者自願接棒籌辦接待任務與今後兩校交流的業務，轉眼至今匆匆 10 年。



2011 年 1 月筆者帶領 13 位學生再度訪問尚綱大學，在 3 年 4 度頻繁的互訪中，交流模式逐漸成形。筆者與北口老師為了要讓雙方的交流更加穩定與制度化，於是積極推動東語系和文化語言學部簽訂交流協議，期望能在平等互惠的原則之下進行更進一步的交流。經過多方奔走和書信往返溝通，兩系決定在 2011 年 7 月底 8 月初，先以通信的方式簽訂「慈濟大學人文社會學院東方語文學系和尚綱大學文化語言學部建立長期友好合作與交流關係協議書(慈濟大学人文社会学院東方語文学系と尚綱大学文化言語学部の間における学術及び教育の交流に関する協議書)」。同年 9 月，在時任文化語言學部學部長林田教授率團訪問東語系的同時，與當時擔任東語系系主任的陳金木教授簽訂了「慈濟大學人文社會學院東方語文學系和尚綱大學文化語言學部學生交流(短期語言留學)」、「慈濟大學人文社

會學院東方語文學系和尚綱大學文化語言學部學生交流(文化學術互訪)」、「慈濟大學人文社會學院東方語文學系和尚綱大學文化語言學部學生交流(交換留學)」、「慈濟大學人文社會學院東方語文學系和尚綱大學文化語言學部日本語教師培訓課程之日本語教學實習」等 4 項實施備忘錄，明訂出兩系交流的實行細則。2014 年，雙方決定提升交流合作關係到校對校的層級，於是簽訂了慈濟大學與尚綱大學的交流 MOU，正式締結為姊妹校。

## 2、交流的成果

簽定了交流實行細則之後，東語系和文化語言學部的交流項目更豐富，活動進行更加順暢。具體的交流成果如下：



- (1) 交換留學方面:從 2011 年開始試辦派遣交換留學生至今，共有尚綱 14 名、慈濟 16 名學生接受派遣成為交換留學生。
- (2) 在短期留學方面:自 2012 年尚綱首度到慈濟、2014 年慈濟首度赴尚綱至今，期間除了 2016 年因為熊本大地震和 2017 年的花蓮地震、2020 年新冠肺炎疫情等因素暫停舉辦之外，共有尚綱 40 名、慈濟 56 名學生參加過短期留學的活動。
- (3) 在文化學術互訪方面:自 2011 年起依照交流協議實施，截至 2021 年現在，除了 2016 年因為熊本大地震、2020 年以後因為新冠疫情暫停舉辦之外，慈濟共接待尚綱大學來訪 7 次、慈濟訪問尚綱 3 次，共有 89 位同學參與交流活動。如果再加上簽約定交流協議前的 4 次互訪，兩校共有學生 144 人次參與交流活動。

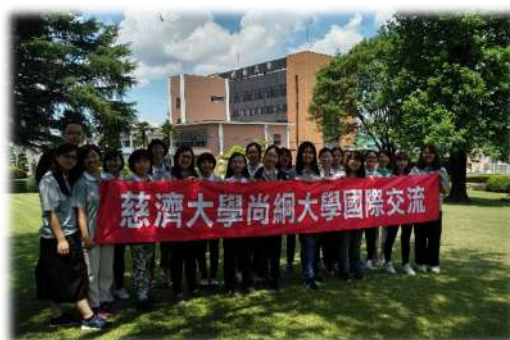
## 3、交流的內容

兩校的國際交流業務，主要由尚綱大學的北口英穗老師和東語系的賴芷葳老師(筆者)負責籌辦推動。在慈濟方面每年處理和尚綱的國際交流業務主要分為以下幾項：

- (1) 接待來自尚綱的短期留學團：每年 3 月，慈濟大學的師生迎接來自尚綱的學生來慈濟做為期三週的短期留學。雖然短期留學的業務主要是由華語中心負責，但是東語系的學生會擔任生活輔導員，幫助尚綱的同學認識慈濟大學的環境和適應台灣的生活。此外，在短期留學期間，筆者也會協助尚綱的同學做海外服務學習或是田野調查活動。有關短期華語留學的內涵，將由華語中心的主任李孝慈老師做更詳細的說明。



- (2) 籌辦暑假本校學生赴日本尚綱大學的短期留學和文化學術互訪團：每年 4 月開始策畫暑期帶領慈濟的學生赴尚綱大學的短期遊學和文化學術互訪團的交流活動。首先要和北口老師確認短期遊學和文化學術互訪團的細節，包含活動時間、內容和費用，然後根據這些內容向學校提出企畫書以尋求經費補助。<sup>1</sup>一旦確認活動的時間和費用之後，就同步開始宣傳招募有興趣參加的學生，以確定參加人數。在招生的同時，對外要和旅行社接洽班機時間、訂位、開票和付款等業務。對內舉辦行前教育和說明會，學生任務分組、準備交流會內容、提醒出國注意事項等，這些前置作業完備後才能順利在 7 月帶團出國。回國後還有經費核銷、提交書面成果報告等後續的業務要處理。



- (3) 接待尚綱的文化學術互訪團：根據交流實施細則，兩校的文化學術互訪團是採取隔年互訪的方式進行，通常是 9 月尚綱來訪隔年 7 月慈濟回訪，一年接待一年訪問輪流進行。因此如果輪到本校接待文化學術互訪團時，必須在暑假來臨前事先策畫當年的活動主題，並且和北口老師確認時間和參加的人數，以便提出企劃案向學校申請經費。另一方面開始招募參加交流的學生，



<sup>1</sup> 以往的慣例學校會補助出國短期留學學生 8 成機票費用，但是團員名單和交流企畫書必須在每年 5 月 15 日以前提出，否則不予受理補助經費。



組成活動小組、選出組織幹部、分派任務以籌辦接待任務。暑假期間筆者和這些學生多次開會，再三確認和演練，提醒每個幹部準備好自己分配到的任務(例如活動的主持人、翻譯、攝影、場地布置、接待、交通、餐飲等)，確保在 9 月開學的第一週能順利迎接來自尚綱的同學到訪。通常文化學術互訪團的活動內容分為以下幾個部分，第一是歡迎會，學生會撥放暑假期間準備好的 PPT 介紹慈濟和花蓮，讓尚綱的學生

- (4)對慈濟和花蓮有一些認識，然後再以自我介紹或破冰遊戲等方式認識彼此、破除陌生感。第二是課程體驗，安排中文會話課和慈濟的靜思茶道，讓尚綱的同學體驗靜思茶道和台灣的大學生活。第三是城市探索，白天利用一日巴士小旅行的方式讓兩校的學生一起參訪花蓮的景點，然後分組報告心得。晚上由慈濟的同學陪伴日本同學品嚐台灣美食，或是購買伴手禮，深入台灣的街市貼近台灣的庶民生活，體驗台灣有名的夜市和小吃文化。

為了要讓文化學術互訪團的活動增添教育性與趣味性，筆者與北口老師每年都絞盡腦汁，希望設計出寓教於樂的行程，強化活動的內涵和深度。以尚綱來訪的交流活動為例：

- 2010 年主題為「花蓮的日本表情」：希望兩校學生透過對花蓮的日治時代遺跡，認識台日的近代史與花蓮的歷史。
- 2011 年的主題為「台灣. 花蓮的自然、人文與飲食文化」：學生們參觀了花蓮的茶葉和咖啡產業、日據時代的糖廠和林場、台式「麻糬」的手作體驗，筆者甚至安排了學生 home stay 台灣家庭一晚，讓來訪的學生能深入體驗台灣人的家庭生活。
- 2013 年主題是「日治時代的移民村和台灣的客家文化」：把重點放在日據時代的移民村和台灣的客家文化，參觀日本移民村的遺跡和體驗台灣客家人的染布藝術。
- 2015 年主題是「花蓮的山與海」：安排體驗花蓮的山與海之美，參觀世界級的美景太魯閣和美麗的太平洋海岸線，並且要求同學們考察花蓮觀光地區的日語標示。
- 2017、2019 年主題為「花蓮的日本建築」：以花蓮的日式建築為考察重點，參訪「玩味蕃樂園」博物館，體驗早期的台灣風情。

### 三、 師生的感想與心得

這十年的交流活動無論是參加尚綱的短期遊學或是參與



兩校舉辦的文化學術互訪活動，慈濟的學生都深深地感受到自己的成長與進步。以下是幾位慈濟學生的心得摘要：

- 葉怡君：「從交流中，我們彼此都學習到各自文化的異同之處，這是最享受的時光。……這次的交流活動讓我成長許多，意識到自己的不足與進步空間，我相信這些美好的回憶能夠陪伴我走向更加美好的前程。感謝老師與同學們如此用心的安排這次的活動，讓我們做了為期兩天的外交人員。」
- 蘇柏陞：「雖然與日本人聊天時還蠻緊張的，感覺學的東西都忘記了，但我覺得講得不好沒關係，重點是願意開口說日語的勇氣。」
- 金俊樺：「經過了這次台日交流，我感覺自己又成長了不少，能鼓起勇氣跟不認識的人對話，而且是用日文溝通，這是以前的我絕對做不到的事…，我很慶幸自己參加了這次的活動，和日本人做了朋友，也學習到新的知識，讓我想趕快把日文學好。」
- 鄧浩瀚：「經過了這次的活動，我發現自己會話能力的不足，所以今後要更加強這方面的能力。非常慶幸參加了這次的活動，讓我知道了自己不足的地方，這是個難忘的經驗。」
- 陳湘明：「很高興參加了這次的活動，結交了日本的朋友，這讓我更有動力學習日文了！如果有機會，我希望下次能夠參加熊本的交流活動去日本拜訪她們。」
- 吳仲文：「交流活動的最後一天，我們到月台去送行，雖然只有幾天的相處，但是大家都依依不捨。日本的同學後來還寄信來給我們，說『很期待再來台灣』，這句話讓我感到很開心。我覺得交流最大的意義除了在文化交流之外，也交流了彼此的心意。」
- 陳亮均：「我很開心參加了這次的活動，它打開了我的眼界，讓我看到台灣以外的地方，而不只是透過電視、書本等間接的方式了解日本。這次來到日本收穫很多，像是體驗了日本傳統的茶道和書道，參觀了阿蘇神社並品嚐了當地的泉水，體驗了著名的阿蘇火山的硫磺味，但是最重要的是學到了不要侷限於自己的舒適圈，而要勇敢踏出去才會有所成長。」
- 胡佩淳：「這次短期留學收穫滿滿，每天都過得很充實、學到新的事物，也體驗了日本大學生的生活和日本的文化。…很高興能參與這次的短期遊學，感謝學校舉辦這樣的活動，讓我有學習的機會。」
- 季珮瑩：「經歷了這次的交流讓我更確定我想要到日本唸書當交換生，所以我要更努力讀書、通過日語能力檢定考試，一步一步朝向目標邁進。」
- 江念庭：「這次來日本三星期的短期留學，讓我流連忘返。如果再給我一次機會，我一定會再回一次，來好好感受日本，好好學習日文，提升自己的實力。」
- 石芷瑄：「三個禮拜的時間很快就過了，覺得自己真的進步很多，也更有學習日文的動力。和一般的旅遊團不同，在這裡體驗了不同於台灣的學習和生活方式，是個很難得的經驗。…謝謝尚綱大學的安排和慈濟大學提供這個機會讓我們能好好學習日文體驗日本。」

礙於篇幅有限，在此無法將同學的心聲一一呈現，但是從這些參加過交流活動的同學心得中發現，大家都非常肯定兩校舉辦的交流活動，覺得自己從活動中認識到日本文化、結交到日本朋友，拓展自己的國際視野，收穫很多。另外，也省思到自己的日語能力不足還更需要加強的事實。此外許多同學都萌發出留學日本的夢想，無形中也提高了學習動機。事實上，這幾年慈濟派遣到日本姊妹校的交換留學生中，幾乎所有的人都曾經參與過尚綱的短期留學和文化學術互訪的活動。看到這些本來不敢夢想自己能到日本留學的孩子，後來只需要繳交台灣的學費就能到日本的大學讀書完成留日夢想、有的孩子甚至在畢業後還留在日本就業，徹底改變人生，就是這些來年筆者在推動交流工作時最感到安慰的事情。

雖然因為新冠肺炎疫情，兩校的交流受到限制，許多活動不得不暫停舉辦，但是東語系與文化尚綱學部仍然積極利用網路視訊等方式，持續推動學生的交流。未來期望兩校的交流能夠持續下去並且發揚光大，期待另一個十年的交流紀念到來。

慈濟大學東方語文學系 賴芷葳

## 5. これからの10年

### これからの交流

2021年現在、本学は台湾、韓国、中国、マレーシアにある6大学と交流協定を締結し、様々な形で交流を促進していますが、中でも最も長い10年余りの友好交流の歴史がある慈済大学は、本学の国際交流史において特別な存在です。

これまで多くの学生が交換留学や短期語学留学、相互研修旅行により、語学を学修し、お互いの社会や文化に対する理解を深めてまいりました。将来を担う日台の若者の相互信頼がますます堅固になることは、日台関係の友好・発展はもちろん、東アジア地域の安寧に資するものです。残念ながら2020年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で実地による交流は現在一時的に途絶えています。遠くない将来必ず再開されるでしょう。そして、その暁には新たな交流のステージが幕を開けます。

これまでの約10年間は、熊本市近郊の菊陽町にある緑豊かな本学武蔵ヶ丘キャンパスが、慈済大学のみなさんの学修と生活の中心でした。しかし、新たなステージでみなさんをお迎えするのは本学の九品寺キャンパスです。これは現代文化学部が2021年3月にキャンパスを移転したことに伴うものです。この九品寺キャンパスには新たにみなさんの学びの場となる大学7号館が完成し、その1階にはグローバルラウンジが設置され海外からの受け入れ体制の充実が図られています。

九品寺キャンパスのある熊本市中央区は、文字通り熊本市の中心地区であり市電やバスなどの公共交通機関も充実しています。ショッピングモールや繁華街は徒歩圏内ですので、生活する上での利便性は格段に向上するでしょう。また、近くには熊本を代表するいろいろな歴史・文化施設が充実しており、熊本城へも歩いて行くことができます。キャンパスには、現代文化学部のほか、大学の生活科学部、短期大学部の総合生活学科と食物栄養学科が設置され、尚絅学園事務局や併設の尚絅中学・高等学校も入ります。慈済大学のみなさんにはこれまで以上に充実したキャンパスライフや熊本生活を送っていただけるものと確信しています。

次の10年は、これまでの交流を発展的に継続し、コロナ禍で増えたオンラインの活用にもさらに工夫を加えながら、新たな取り組みができればと考えています。もちろん、交流は学生だけにとどまりません。教職員の交流や派遣・受入を図り、それを土台として協定書にも謳われる共同研究やセミナー、シンポジウムの実現にも繋げたいと考えます。一つひとつのアイデ

アを双方で話し合いながら着実に具現化することで、交流の幅がいつそう広がった次の10年になるよう努力してまいります。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部  
グローバル化推進センター長 竹下裕俊

(対訳)

#### 今後の交流

2021年現在、本校已經和台灣、韓國、中國、馬來西亞的六所大學簽訂交流協定，推動各種形式的交流，其中和慈濟大學的友好交流長達10多年歷史最為悠久，對於本校的國際交流史來說也是最具有意義的。

到目前為止，許多學生透過了交換留學或是短期遊學、相互研修旅行等的活動，學習語言、並更深刻理解彼此的社會與文化。這使得肩負日台未來的年輕人，加強了對於彼此的相互信賴，對於增進日台關係的友好、甚至東亞地區的安寧也具有很大的貢獻。只可惜受到2020年開始的新冠肺炎疫情影響，一時斷絕了實地交流，但是相信不久的將來交流一定會重啟，到時候又是一個嶄新的交流舞台的開幕！

在之前的10年，慈濟大學的留學生一直都是以位於熊本市郊菊陽町、綠意盎然的武藏丘校區作為學習和生活的中心。但是在新的階段，迎接大家的將會是本校的九品寺校區。這是因為現代文化學部在2021年3月已經遷移到這個校區的緣故。在九品寺校區，我們特別蓋了一個大學7號館作為大家學習的新地方，並在1樓規劃了國際交誼廳，專門接待從海外來的留學生。

九品寺校區位在熊本市中央區，就如字面上的意思一樣，地處熊本市的地帶，這裡有市區電車和巴士等，公共交通非常方便。因為步行就可以到達購物商圈和繁華街，大大的提升了生活的便利性。而且附近充滿了代表熊本各種歷史、文化機構，也可以步行到熊本城。在這個校區裡除了現代文化學部，還有大學的生活科學部、短期大學的綜合生活科和食品營養學科，此外還有尚綱學園的行政部門和附屬尚綱中學、尚綱高中。因此我們相信未來可以提供慈濟大學的各位更加完善的校園設備和充實的熊本生活。

希望在下一個10年，我們可以延續以往的交流，同時加強活用因應新冠疫情所增加的線上交流，並且能開創出新的交流模式。而且希望今後的交流不只限於學生，我們也致力擴展教職員的交流和交換學者，以兩校的交流協定為基礎來舉辦兩校教職員的共同研究、研討會、座談會等活動。透過雙方的協商，將一個一個想法具體實現，擴大交流的範圍朝向下一個10年來努力！

尚綱大學・尚綱大學短期大學部 國際交流中心主任 竹下裕俊

## 序

慈濟大學與尚綱大學於 2011 年締結姐妹校，身為國際長對於兩校過去十年間雙方在國際交流方面多項活動的合作，包括交換學生、華語中心、東方語文學系的交流，尤其是在全球疫情嚴峻時期，我對於兩校這份堅貞的友誼，著實感到非常感動。

在過去十年間，慈濟大學也已經成為一所國際型的大學，我們有來自超過二十六個國家，將近三百位的國際學生，本國生將近三千人，我們在校內定期舉辦各種跨國文化交流活動，包括美國耶誕節宴會、印度燈節、泰國水燈節、非洲及印尼的文化節慶活動，促進多元化及國際化的學習環境，也提供全英文的課程給國際學生。

慈濟大學自 2014 年開始，每年定期有學生前往尚綱大學進行交換留學，感恩尚綱大學對慈濟大學交換生的悉心安排與照顧，開啟學生國際視野，幫助學生完成夢想，感恩所有師長的努力，樹立兩校十年來的交流典範，希望在下一個十年，兩校交流的模式不只是實體的交流，更包括雲端的交流，希望更多尚綱大學的師生可以透過雲端，無秒差的參與慈濟大學的跨文化及學術活動，感受國際化的環境，在後疫情時代，開啓另一種嶄新的交流模式。

慈濟大學為佛教慈濟慈善事業基金會所創辦的大學，校訓為「慈、悲、喜、捨」，尚綱大學則是以實踐的精神為基礎，提高自己，與他人共生，鼓勵師生追求獨立科研和培養以全球視野來觀察世界，對社會和人類做有實質性的貢獻，兩校理念相契合，更是成為兩校十年來合作精神的最佳支持。我也竭誠歡迎更多尚綱大學的師生來到慈濟大學校園交流，除了學術方面的交流，更是期盼學生瞭解慈濟的人文精神，建立正確的人生價值觀，能善用有限的生命，培養世界公民責任感。

敬祝兩校的未來合作堅若磐石，這份踏實穩健的交流精神，對本校與亞洲姊妹校的學術合作及文化交流有著指標性的意義。無限感恩。

慈濟大學 國際長 蕭心怡 謹誌

(対訳)

慈濟大学と尚綱大学は 2011 年に姉妹交流協定を締結しました。国際長として、両校 10 年間の国際交流における多方面の活動、即ち交換留学、中国語センターにおける中国語研修、東方語文学系の交流について、パンデミックのこの時期においても固い友情で結ばれていることに、大変感動しています。

この10年間に於いて、慈済大学もグローバルな大学に成長しました。26カ国、300名近くの留学生と約3000名の学生がいますが、定期的に様々な異文化交流活動を開催しています。アメリカのクリスマスパーティー、インドのランタンフェスティバル、タイの水かけ祭り、アフリカやインドネシアの文化的イベント等を開催するなど、多文化とグローバル化を推進する学習環境や全て英語によるカリキュラムを学生に提供しています。

慈済大学は2014年より毎年定期的に尚絅大学へ交換留学生を派遣していますが、尚絅大学の慈済大学の交換留学生に対する心を尽くした対応、学生のグローバルな視野の拡大、学生の夢実現への尽力に感謝いたします。また、全ての先生方のご尽力により、両校10年の交流モデルが樹立できたことに感謝いたします。次の10年、両校の交流モデルは、対面の交流だけでなく、オンライン交流も期待されます。更に多くの尚絅大学の先生方、学生のみなさんがオンラインを通じ、リアルタイムで慈済大学の異文化交流や学術活動に参加し、グローバルな環境を経験することで、ポストコロナにおいて新たな交流モデルを作り上げていくことを期待しています。

慈済大学は仏教慈済慈善事業基金が創設した大学で、校訓は「慈・悲・喜・捨」です。尚絅大学の校訓との調和により10年来の交流が成功したと思います。更に多くの尚絅大学の先生方、学生のみなさんに慈済大学を訪問していただきたいと強く願っています。学術方面の交流以外にも、学生のみなさんに慈済の人文精神を理解していただき、正しい人生観を形成し、限りある命を善く使い、世界人としての責任感を育成していただくことを期待しています。

両校の今後の交流が盤石になり、この着実な交流精神が、本学とアジアの姉妹校の学術交流と文化交流における指標になることを願います。

慈済大学 国際長 蕭心怡

## 編集後記

コロナ禍で実地による国際交流が中断して 3 年目に入りました。これほど長い期間コロナに振り回されることになろうとは、当初は誰も予想だにしませんでした。まさに、100年に一度の災禍です。この災禍は、国と国の関係においては、良くも悪くもいろいろなものをあぶり出しました。それにより、我が国と台湾の2国間の強くて太い絆を改めて認識することにもなりました。

この度の本学と慈済大学の交流協定締結 10 周年では、この災禍にひるむことなく 10 年間の交流の足跡を「記念誌」としてまとめることができました。お忙しいところ原稿をお寄せいただいた慈済大学の皆様や本学関係者、そしてご協力いただいたすべての方々へ心よりお礼申し上げます。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部  
グローバル化推進センター長 竹下裕俊



尚綱大学・尚綱大学短期大学部  
慈済大学  
交流協定締結 10 周年記念誌

令和 4 年(2022 年)3 月 20 日発行

編集 尚綱大学・尚綱大学短期大学部 グローバル化推進センター  
協力 慈済大学(台湾)  
発行 尚綱大学・尚綱大学短期大学部  
〒862-8678  
熊本市中央区九品寺 2 丁目 6 番 78 号  
TEL 096-362-2011  
印刷 シモダ印刷株式会社  
〒869-0562  
熊本県宇城市不知火町長崎 240-1  
TEL 0964-32-3131